

Title	平成二十年度 退職教員略歴・主要業績
Author(s)	
Citation	大阪大学大学院文学研究科紀要. 2009, 49, p. 43-55
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/12313
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

平成二十年度 退職教員略歴・主要業績

うめむら 梅村 たかし 喬 教授 日本史講座（日本史学）

おぎの 荻野 みほ 美穂 教授 日本学講座（日本学）

さなだ 真田 しんじ 信治 教授 日本語学講座（日本語学）

とぎ 土岐 さとし 哲 教授 日本語学講座（日本語学）

梅村 喬 教授 略歴・主要業績

生年月日 1945年12月13日 本籍 愛知県

学 歴

1969年3月 名古屋大学文学部卒業
 1971年3月 名古屋大学大学院文学研究科修士課程史学地理学専攻修了
 1974年3月 名古屋大学大学院文学研究科博士課程史学地理学専攻満期退学
 1974年4月 名古屋大学研究生（1975年3月まで）
 1990年11月21日 文学博士の学位を取得（名古屋大学・論文博35号）

職 歴

1975年4月 名古屋大学文学部助手
 1976年4月 愛知県立大学文学部講師
 1979年4月 愛知県立大学文学部助教授兼愛知県立女子短期大学助教授
 1981年10月 東京大学史料編纂所国内研究員（1982年3月まで）
 1990年10月 愛知県立大学文学部教授
 1993年10月 東京大学史料編纂所国内研究員（1994年3月まで）
 1999年3月 愛知県立大学文学部を退職
 1999年4月 大阪大学大学院文学研究科教授

学内委員

広報委員，懐徳堂センター委員，教務委員・教務委員長，大阪大学文学会委員，教育支援室・教務学位部門委員，埋蔵文化財調査委員，研究推進室・図書部門委員などに従事

社会活動および学会役員など

1977年4月 新修稲沢市史編纂委員
 1990年4月 三重県史専門委員・古代史部会部会長
 1994年7月 愛知県史調査執筆委員
 1998年4月 瀬戸市史編纂執筆専門委員
 2006年4月 東京大学史料編纂所教授業績評価外部評価員

この間，名古屋古代史研究会委員，名古屋歴史科学研究会代表，大阪歴史科学協議会委員，同委員長，歴史科学協議会常任委員，歴史科学協議会代表理事

主な業績

〔著 書〕

1. 1980年12月 『新修稲沢市史・資料編三 尾張国解文』（共編著，稲沢市）
2. 1987年9月 『図説愛知県の歴史』（共著，河出書房新社）
3. 1989年11月 『日本古代財政組織の研究』（単著，吉川弘文館）
4. 1990年2月 『詳解日本史B』 高等学校社会科教科書（共著，三省堂）
5. 1994年4月 『日本古代史新講』（共編著，梓出版社）
6. 1996年11月 『古代王権と交流 伊勢湾と古代の東海』（編著，名著出版）
7. 1998年3月 『明解日本史A』 高等学校社会科教科書（共著，三省堂）
8. 1999年3月 『愛知県史 資料編6 古代1』（共編，愛知県）
9. 2000年12月 『愛知県の歴史』（共著，山川出版社）
10. 2002年3月 『三重県史・資料編 古代（上）』（共編，三重県）
11. 2005年2月 『瀬戸市史 資料編三 原始・古代・中世』（共編，瀬戸市）
12. 2005年3月 『平安時代における訴訟文書および関係史料の研究』 科学研究費補助金基盤研究（B）研究成果報告書
13. 2006年2月 『日本古代社会経済史論考』（単著，塙書房）
14. 2007年2月 『瀬戸市史 通史編上』（共編著，瀬戸市）
15. 2007年3月 『三重県史・資料編 古代（下）』（共編，三重県）
16. 2009年3月 『平安時代における土地公証文書および所領安堵の前提的研究』 科学研究費補助金・基盤研究（C）研究成果報告書（予定）

〔論 文〕

1. 1974年5，6月 「勘会制の変質と解由制の成立・上，下」 日本史研究142，143号
2. 1975年7月 「民部省勘会制と勘解由使勘判」 『名古屋大学日本史論集・上巻』
3. 1978年5月 「民部省勘会制の成立」 『日本古代の社会と経済・上巻』 所収
4. 1980年2月 「尾張国解文諸本の基礎的考察」 日本歴史381号
5. 1980年3月 「尾張国解文古写本の検討」 愛知県立大学論集29号
6. 1982年3月 「律令財政と天皇祭祀」 日本史研究235号
7. 1986年1月 「饗宴と禄 — “かづけもの” の考察 —」 歴史評論429号
8. 1987年3月 「平安時代貢納経済の一視角」 歴史学研究565号
9. 1991年8月 「いわゆる私出拳禁止令の理解について」 続日本紀研究275号
10. 1993年9月 「「所」の基礎的考察」 『日本律令論集・上巻』 所収
11. 1995年12月 「在地所司について」 古代文化48巻1号
12. 1999年5月 「在地の歴史的語義について」 日本史研究439号

13. 2000年3月 「大須真福寺文庫新出の尾張国郡司百姓等解文写本について」愛知県史研究4号
14. 2000年3月 「平安時代土地公証制度の研究序説」大阪大学大学院文学研究科紀要40号
15. 2001年1月 「平安時代土地公証制試論 — 在地・領主・文書 —」ヒストリア173号
16. 2001年12月 「『承平二年丹波国牒』の背景 — 一条里坪付の展開 —」待兼山論叢35号
17. 2004年9月 「禁制と勝示木簡 — 袴狭遺跡出土「禁制木簡」をめぐって —」日本歴史676号
18. 2005年3月 「『尾張国郡司百姓等解文』諸写本の校異と考察」愛知県史研究第9号
19. 2005年5月 「石母田正の在地理論と古代・中世史学」歴史学研究801号
20. 2007年3月 「新たに発見された法隆寺文書について」『三浦家文書の調査と研究 — 近世後期河内の医師三浦蘭阪蒐集史料 —』所収

荻野 美穂 教授 略歴・主要業績

略 歴

- 1945年10月 中国・青島生まれ
- 1968年 3月 神戸女学院大学文学部英文学科卒業（英文学専攻）
- 1985年 3月 奈良女子大学大学院文学研究科修士課程修了（史学専攻）
- 1987年 3月 奈良女子大学大学院人間文化研究科博士課程退学（比較文化学専攻）
- 1987年 4月 奈良女子大学大学院人間文化研究科助手
- 1990年 4月 奈良女子大学文学部専任講師
- 1993年 4月 同助教授
- 1996年 4月 京都文教大学人間学部助教授
- 2000年 3月 お茶の水女子大学博士（人文科学）学位授与
- 2000年 4月 大阪大学大学院文学研究科助教授（日本学）
- 2005年 8月 同教授
- 2009年 3月 大阪大学を定年により退職

主要業績

〔単 著〕

- 『生殖の政治学 — フェミニズムとパース・コントロール』山川出版社, 1994年12月
- 『中絶論争とアメリカ社会 — 身体をめぐる戦争』岩波書店, 2001年 4月
- 『ジェンダー化される身体』勁草書房, 2002年 2月
- 『「家族計画」への道 — 近代日本の生殖をめぐる政治』岩波書店, 2008年10月

〔共編著〕

- 『共同研究 男性論』人文書院, 1999年10月
- 『身体をめぐるレッスン 1～4』岩波書店, 2006年11月～2007年 2月
- 『〈性〉の分割線』（日本学叢書第2巻）青弓社, 2009年 1月

〔共 著〕

- 『制度としての〈女〉 — 性・産・家族の比較社会史』平凡社, 1990年 7月
- 『英国をみる — 歴史と社会』リプロポート, 1991年 1月
- 『家族の社会史』（シリーズ変貌する家族1）岩波書店, 1991年 7月
- 『母性から次世代育成力へ』新曜社, 1991年 9月
- Women of Japan and Korea* (Gelb and Palley, eds.), Temple University Press, 1994
- Historical Studies in Japan, 1988-1992*, Yamakawa Shuppansha, 1995

- 『民衆の文化誌』（英国文化の歴史4）研究社出版，1996年1月
- 『病と医療の社会学』（岩波講座現代社会学14）岩波書店，1996年3月
- 『ジェンダーと女性』早稲田大学出版部，1997年3月
- 『アメリカ研究とジェンダー』世界思想社，1997年8月
- 『西洋世界の歴史』山川出版社，1999年9月
- 『普遍と多元』（岩波講座世界歴史28）岩波書店，2000年1月
- 『構築主義とは何か』勁草書房，2001年2月
- 『女の領域・男の領域』（いくつもの日本4）岩波書店，2003年2月
- 『“ポスト”フェミニズム』作品社，2003年8月
- 『歴史はいかに書かれるか』（歴史を問う4）岩波書店，2004年6月
- 『国民国家と家族・個人』早稲田大学出版部，2005年9月
- 『白人とは何か？』刀水書房，2005年10月
- 『アジア・太平洋戦争3 動員・抵抗・翼賛』岩波書店，2006年1月
- 『産む・産まない・産めない』講談社現代新書，2007年1月
- Dark Medicine: Rationalizing Unethical Medical Research* (LaFleur et al., eds.), Indiana University Press, 2007
- 『生命というリスク — 20世紀社会の再生産戦略』法政大学出版局，2008年5月
- 『悪夢の医療史 — 人体実験・軍事技術・先端生命科学』勁草書房，2008年10月
- 〔論文〕
- 「性差の歴史学 — 女性史の再生のために」『思想』768号，1988年6月，73-96頁
- 「子殺しの論理と倫理 — ヨーロッパ社会史をもとに」『女性学年報』9号，1988年10月，1-18頁
- 「フェミニズムと生物学 — ヴィクトリア時代の性差論」『奈良女子大学人間文化研究科年報』4号，1989年3月，122-134頁
- 「産むも地獄，産まぬも地獄の・・・」『現代思想』18-6，1990年6月，58-67頁
- 「[主人]の考現学 — 日本語における夫の呼称について」『女性学年報』13号，1992年10月，11-24頁
- 「身体史の射程 — あるいは，何のために身体を語るのか」『日本史研究』366号，1993年2月，39-63頁
- 「[女]というカテゴリー — 日本語における性による差異化とフェミニズム」奈良女子大学文学部『研究年報』36号，1993年3月，101-117頁
- “Japanese Women and the Decline of the Birthrate,” *Reproductive Health Matters*, No.1, May 1993, pp.78-84

- 「日本における女性史研究とフェミニズム」『日本の科学者』28巻12号, 1993年12月, 4-10頁
- 「生命と権利のディスコース — アメリカの中絶論争を読む」『思想』878号, 1997年8月, 76-100頁
- 「避妊の歴史の中のピル」『インパクション』105号, 1997年11月, 14-20頁
- 「解説 産児調節運動編」『性と生殖の人権問題資料集成 解説・総目次・索引』不二出版, 2000年6月, 5-16頁
- 「「家族計画」への道 — 敗戦日本の再建と受胎調節」『思想』925号, 2001年6月, 169-195頁
- 「戦後家族計画史のためのノート」『待兼山論叢』36号, 2003年2月, 19-29頁
- 「反転した国策 — 家族計画運動の展開と帰結」『思想』955号, 2003年11月, 175-195頁
- 「戦後家族計画史のためのノート」『待兼山論叢』36号, 2003年2月, 19-29頁
- 「先端生殖技術とフェミニズムのディレンマ」『死生学』2003年11月号, 1172-182頁
- “Leading Reproductive Technologies and the Feminist Dilemma,” *Bulletin of Death and Life Studies*, Vol.1, 21st Century COE Program DALs, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo, 2005, pp. 39-43.
- 「近代家族と生殖技術」『日本学報』24号, 2005年3月, 39-47頁
- 「障害を理由とした中絶とフェミニズム — アメリカの場合, 日本の場合」『思想』979号, 2005年11月, 85-111頁
- 「生殖技術と近代家族の融解」『F-G E N S』2007年3月, 57-63頁
- 「代理出産の意味するもの — 「搾取」と「自己決定」の間で」『日本学報』28号, 2009年3月

真田 信治 教授 略歴・主要業績

1946年2月 富山県南砺市（五箇山郷）に生まれる

学 歴

1968年3月 金沢大学教育学部中等教育科卒業
 1970年3月 東北大学大学院文学研究科修士課程修了
 1972年3月 東北大学大学院文学研究科博士課程退学
 1990年7月 文学博士の学位を大阪大学より授与される

職 歴

1972年4月 東北大学文学部助手
 1974年4月 椋山女学園大学文学部専任講師
 1975年4月 国立国語研究所言語変化研究部研究員
 1982年4月 大阪大学文学部助教授
 1993年8月 大阪大学文学部教授
 1999年4月 大阪大学大学院文学研究科教授

非常勤講師歴

東京大学，京都大学，東北大学，神戸大学，信州大学，三重大学，福井大学，富山大学，
 島根大学，山口大学，高知大学，香川大学，宮城教育大学，奈良教育大学，関西学院大学，
 天理大学，甲南大学，学習院大学，明治大学，四国学院大学，金城学院大学，椋山女学園
 大学，神戸松蔭女子大学，広島女子大学，志学館大学，藤女子大学 他

受 賞

1990年11月 金田一京助記念賞（第18回）
 1991年4月 とやま賞（第8回）

主要業績

〔著 書〕

真田信治『地域語への接近—北陸をフィールドとして—』秋山書店（210頁），1979
 真田信治『日本語のゆれ—地図で見る地域語の生態—』南雲堂（185頁），1983
 真田信治『日本語のバリエーション—現代語・歴史・地理—』アルク（201頁），1989
 真田信治『地域言語の社会言語学的研究』和泉書院（424頁），1990

- 徳川宗賢・真田信治（編）『新・方言学を学ぶ人のために』世界思想社（291頁），1990
- 真田信治『標準語はいかに成立したか』創拓社（222頁），1991
- 真田信治・渋谷勝己・陣内正敬・杉戸清樹『社会言語学』桜楓社（199頁），1992
- 真田信治・任榮哲『社会言語学』展開 韓国／時事日本語社（197頁），1993
- 徳川宗賢・真田信治（編）『関西方言の社会言語学』世界思想社（220頁），1995
- 真田信治『地域語のダイナミズム — 関西』おうふう（166頁），1996
- 真田信治『日本社会言語学』中国／中国書籍出版社（124頁），1996
- 真田信治・D. Long（編）『社会言語学図集 日本語・英語解説』秋山書店（201頁），1997
- 真田信治・都竹通年雄・真田ふみ『富山県のことば』明治書院（259頁），1998
- 真田信治『よくわかる日本語史』アルク（174頁），1999
- 真田信治（編）『展望 現代の方言』白帝社（252頁），1999
- 真田信治『脱・標準語の時代』小学館（222頁），2000
- 真田信治『関西・ことばの動態』大阪大学出版会（86頁），2001
- 真田信治『標準語の成立事情』PHP研究所（224頁），2001
- 真田信治『方言は絶滅するのか 自分のことばを失った日本人』PHP研究所（212頁），2001
- 真田信治（編）『百年前の越中方言』桂書房（223頁），2001
- 真田信治『方言の日本地図 — ことばの旅 —』講談社（214頁），2002
- 真田信治『都道府県 気持が伝わる名方言141』講談社（238頁），2005
- 真田信治・生越直樹・任榮哲（編）『在日コリアンの言語相』和泉書院（300頁），2005
- 真田信治・庄司博史（編）『事典 日本の多言語社会』岩波書店（386頁），2005
- 真田信治（編）『社会言語学の展望』くろしお出版（259頁），2006
- 真田信治『方言は気持ちを伝える』岩波書店（193頁），2007
- 真田信治・友定賢治（編）『地方別 方言語源辞典』東京堂出版（347頁），2007
- 〔報告書〕
- 真田信治（編）『20世紀の日本社会言語学研究文献リスト』＜CD-ROM版＞大阪大学21世紀COEプログラム成果報告書（CD-ROM 1枚），2003. 10
- 津田葵・真田信治（責任編集）『言語の接触と混交 台湾残存日本語の談話データ』大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文科学」報告書（158頁），2005. 3
- 津田葵・真田信治（責任編集）『言語の接触と混交 サハリンにおける日本語の残存』大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文科学」報告書（160頁），2006. 3
- 津田葵・真田信治・工藤真由美（責任編集）『言語の接触と混交 Language Contact and Admixture』大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文科学」報告書（390頁），2007. 1

土岐 哲 教授 略歴・主要業績

1946年3月 青森県西津軽郡深浦町に生まれる

学 歴

1966年4月 早稲田大学第二文学部Ⅱ類入学

1970年3月 同 日本文学科卒業

職 歴

1970年5月 ジャパンマリンサービス株式会社

1971年4月 財団法人国際学友会専任講師

1974年9月 アメリカ・カナダ11大学連合日本研究センター専任講師

1978年9月 プリンストン大学東アジア学部客員講師

1980年4月 東海大学留学生別科専任講師

1983年4月 東海大学留学生教育センター助教授

1984年10月 名古屋大学総合言語センター助教授

1986年4月 名古屋大学大学院文学研究科兼任助教授

1990年4月 大阪大学文学部助教授（1996年3月教授昇任）

1999年4月 大阪大学大学院文学研究科教授

非常勤講師歴

北海道大学、筑波大学、横浜国立大学、岡山大学、鳴門教育大学、高知大学、首都大学東京、群馬県立女子大学、早稲田大学、慶應義塾大学、南山大学、愛知学院大学、名古屋外国語大学、関西学院大学、同志社女子大学、神戸女学院大学、大阪樟蔭女子大学、志学館大学、活水女子大学、久留米大学、四国学院大学、(中国)広東外語外易大学 他

主要業績**〔著 書〕**

土岐 哲『講座日本語の表現 [3] 話しことばの表現』 共著 筑摩書房（「ひとりごと」執筆 pp 98-106）、1983

土岐 哲『講座日本語と日本語教育第13巻 日本語教育教授法(上)』 共著 明治書院（「音声の指導」執筆 pp 111-138）、1989

土岐 哲『日本語学を学ぶ人のために』 共著 世界思想社（「音声の教育」執筆 pp 245-255）、1992

- 土岐 哲『日本語研究と日本語教育』 共著 名古屋大学出版会（「音声上の虫食い文補填の手掛かりとなる韻律的要素」執筆 pp 225-236), 1992
- 土岐 哲『木村宗男先生古希記念日本語教育史論集』 共著 凡人社（「ミクロネシア・チュークに残存する日本語の音声」執筆 pp 195-206), 2000
- 土岐 哲『日本語学と言語学』 共著 明治書院（「日本語音声の縮約とリズム形式」執筆 pp (55)-(65), 2002
- 土岐 哲『言語と教育—日本語を対象として—』 共著 くろしお出版「ミクロネシア、ポナペに残存する日本語の音声」執筆 pp 149-162, 2004
- 土岐 哲『開かれた日本語教育の扉』 共著 スリーエー・ネットワーク「音声研究と日本語教育」執筆 pp 137-148, 2005
- 土岐 哲『講座日本語教育学』 共著 スリーエー・ネットワーク「日本語教育と音声」執筆 pp 192-205, 2006

〔論文〕

- 土岐 哲「教養番組に現れた縮約形」 単著 日本語教育学会『日本語教育』28号 pp 55-66, 1975
- 土岐 哲「青森県深浦方言における音節意識—いわゆる特殊音節を中心として—」 単著 早稲田大学国文学会『国文学研究』第62集 pp 1-13, 1978 (1994. 『日本列島方言叢書2 東北方言考』ゆまに書房 pp (89)-(101) 採録)
- 土岐 哲「日本語音声教育の変遷」 単著 明治書院『日本語学』第33号 pp 85-93, 1985
- 土岐 哲「音声教育の面から見た教科書」 単著 日本語教育学会『日本語教育』59号 pp 24-37, 1986
- 土岐 哲「聞き取り基本練習の範囲」 単著 日本語教育学会『日本語教育』64号 pp 27-43, 1988
- 土岐 哲「カセットブックに見られる音声表現上の問題点—プロミネンスとポーズを中心として—」 単著 アルク『月刊日本語』1月号 pp 36-39, 1988
- 土岐 哲「日本語音声教育の再検討と一試案—外国人に対する日本語教育を中心に—」 単著 文部省重点領域研究「日本語音声」国際シンポジウム予稿集 pp 269-272, 1992
- 土岐 哲「東京出身者と大阪出身者による同一音声資料の聞き取り結果」 単著 大阪大学文学部『待兼山論叢』日本学編, 第26号 pp 1-15, 1992
- 土岐 哲「日本語会話文の音読に見られる各地方言の韻律的特徴—弘前市出身者の場合—」 単著 『日本語音声と日本語教育』文部省重点領域研究『日本語音声』D-1班, 平成4年度研究成果報告書 pp 57-76, 1993

- 土岐 哲「日本語教育からの応用を考える — 音声言語教育を中心に —」 単著 東京法令出版『月刊国語教育』3月号 pp 18-21, 1994
- 土岐 哲「聞き手の国際化」 単著 明治書院『日本語学』12月号 (1994, vol.13) pp 74-80, 1994
- 土岐 哲「日本語のリズムに関わる基礎的考察とその応用」 単著 大阪大学文学部日本語学言語系『阪大日本語研究』7号 pp 83-95, 1995
- 土岐 哲「教員養成と音声学」 単著 日本音声学会『音声研究』第1巻第1号 pp 6-11, 1997
- 土岐 哲「韓国語話者による日本語倒置疑問文のイントネーション — 上昇形式とその習得パターンをめぐって —」 共著(筆頭執筆) 大阪大学文学部日本語学講座『阪大日本語研究』7号 pp 17-33, 1997
- 土岐 哲“The Remnants of Japanese Phonology in the Micronesian Chuuk” 単著 大阪大学文学部『文学部紀要』第38巻 pp 25-48, 1998
- 土岐 哲「アクセントの下げ, イントネーションの下げ」 単著 大阪大学文学部日本語学講座『阪大日本語研究』10号 pp 53-66, 1998
- 土岐 哲「青森県深浦方言の音声・音韻 — 四世代の横断的内部観察資料から —」 単著 早稲田大学国文学会『国文学研究』第128集 国文学会 pp 145-137, 1999
- 土岐 哲「ミクロネシア・チュークの現日本語学習者による日本語音声」 単著 大阪大学文学部日本語学講座『阪大日本語研究』12号 pp 21-31, 2000
- 土岐 哲「台湾原住民に見られる日本語音声 — アミ語話者の場合 —」『文部科学省特定領域研究 (A) 環太平洋の「消滅に瀕した言語」に関する緊急調査研究 研究報告書』pp 7-26, 2002
- 土岐 哲「台湾原住民ヤミ族に見られる日本語音声 — アミ語話者との比較も交えて —」『文部科学省特定領域研究 (A) 環太平洋の「消滅に瀕した言語」に関する緊急調査研究研究報告書』pp 23-4, 2003. 3
- 土岐 哲「調査者に応じた被調査者のモード切替と音声の質的变化」アクセント史資料研究会『論集』IV号 pp 1-9, 2008. 9. 他

〔解説等〕

- 土岐 哲『聞き方の教育』 単著 アルク NAFL Institute 日本語教師養成通信講座 (全94ページ, テープ1巻監修) 1987
- 土岐 哲『発音・聴解』 共著 荒竹出版 「リズム」, 「プロミネンス」, 「イントネーション」 pp 1-58 (テープ2巻, 俳優音声表現指導・監修) 1989
- 土岐 哲「音声」 (ラジオたんぱ, アルク日本語教師養成講座) 単著 1990. 6. ~ 12. ア

- ルク『月刊日本語』7月号～12月号 <ラジオたんぱ 第一放送, 連続放送(台
本執筆・ゲストの音声表現演出・講師出演)>同上テープ刊行, アルク, 1991
- 土岐 哲「日本語の音声表記法調査」 共著 日本音声学会 1995年度日本音声学会全国
大会予稿集 pp 11-17, 1995
- 土岐 哲「日本語教育の方法論 ― 聞く・話す・読む・書く ―」 単著 文化庁国語課『新
ことばシリーズ3, 日本語教育』pp 64-78, 1996
- 土岐 哲「日本語のスピーチ教育」 単著 明治書院 『日本語学』5月号 pp 6-10, 2001
- 土岐 哲「南の島に生き残った日本語<もう一つの日本語コミュニケーション>」連載
第1回～第12回『月刊日本語』4月号―3月号(各2p)(2001～2002) 他